

白沢中学校2年 太田 桃花

南達交通安全新聞

「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」

運動期間

平成30年12月10日(月)

～平成31年1月7日(月)までの29日間

運動スローガン
運動重点

「ハイビーム 上手に使って 事故防止」

- (1) 高齢者の交通事故防止
- (2) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止(特に、反射材用品等の着用の推進)
- (3) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (4) 飲酒運転の根絶



第29回 南達交通安全大会

南達一市一村にあっては、交通量が増加しており、これに伴い交通事故の発生が増加する可能性を持っています。

さらに、超高齢社会を迎え、全国的にもお年寄りの犠牲者があとを絶たないことから、事故防止のための抜本的対策を講じる必要性に迫られています。

本大会は、このような情勢をふまえ、南達一市一村が一丸となって総合的な交通事故防止対策を推進することを目的とし、11月17日(土)に大玉村の農村環境改善センターで開催されました。

大会では、交通安全功労者及び交通安全作文コンクールの表彰式も行われました。



～交通安全功労者表彰を受ける 登郷尚武さん～



—アトラクション：大玉スポーツ民謡会（左）と YOSAKOI おおたま（右）—

南達交通対策連絡協議会
本宮市・大玉村交通対策協議会 郡山北警察署本宮分庁舎

この頃、テレビのニュースや新聞の紙面に、頻繁に出てくる言葉がある。それは「危険運転」や「あおり運転」という、事故へつながる可能性の高い危険な運転行為を表す言葉である。なぜ、ドライバーがそのような運転行為に走ってしまうのか、私は疑問に思った。

そのような運転をしてしまう原因とはなんなのだろうかと考えた時に、車といふ閉鎖的空间、すなわち、自分一人になれる空間が車にはあるということだ。人は誰しも他人の目がある場合、自分の考え方や気持ちを押さえ、感情をコントロールするものである。それは、社会生活を送る上で人間関係を円滑に進めるために必要なことである。しかし、ひとたびそのような環境から離れ、一人になれる空間へと入った場合、人はどのように変化するだろうか。人前で言うことのできない言葉を発したり、歌を口ずさんだりと、本来の自分を解放してしまうのではないかだろうか。

そのような閉鎖的空间である車のハンドルを握るドライバーの中に、他人の目があつた時にコントロールできていた感情が突如、コントロールができないなり、自分に沸き起つた感情のまま運転をしてしまうドライバーがいることは定かである。

その沸き起つた感情の中で、「一番やつかいな感情は『怒り』ではないだろうか。自分のペースで運転をしている時に、他の車に自分の運転を害されたと思い込み、次第にその思いが怒りへと変わり、その怒りが「危険運転」や「あおり運転」という危険な行為につながつてしまうのではないかと私は思った。では、どうすればそのような突如沸き起つた「怒り」を静め、落ち着かせることができるのだろうか。怒りの感情に身をまかせて発する言動や行為は、他人を傷つけ、運転中であれば事故へつながり、最悪の場合、死者を出してしまることにならぬかねない。事実、すでにこのような危険な運転により、事故を起こし、亡くなってしまった方がいるのだ。少しでも「のやうな危険行為を防ぎ、回避するためには、怒りの感情のコントロール、すなわち「アンガーマネジメント」の必要性がドライバーの方々に求められているように私は思う。自分の中にカツと沸き起つた怒りの感情をコントロールするためには、まずは怒りを感じたら大きく深呼吸をしてみたりするなどして、怒りを静める工夫をするのも大切だ。もしも同乗者がいれば、「落ち着いて」や「危ないからやめて」と声をかけて気持ちを落ち着かせることも可能であろう。しかし、中には同乗者も一緒になって怒りを助長する言葉をかけてしまう場合もあるかもしれない。だからこそ、ドライバーの方々には常に冷静で正しい判断ができるよう、心のブレーキのかけ方を間違わないで欲しいと切に願う。

44日間の入院生活を終え、無事に帰つて来ました。

入院中、何日か車イスを体験しました。自分で歩けるし、大丈夫と思っていても看護師さんから見ると、目まいしたり、転んだりするといけないから、「車イスに乗つて下さい」と言われて乗りました。

看護師さんが、手取り、足取り、しっかりと指導して下さつて、乗るたびに付添いして下さいました。自分で、しっかりと乗りこなせるようになつても、念のためと言つて病室に戻るまで見ていて下さいました。せまい道や、横断歩道でも、青信号になつても、前見て、左見て、右見てと、しっかりと心にぎり込んで行動しなければなりません。

高齢者なので、歩いても、車に乗つても交通ルールをしっかりと守つています。

家から、一步と出た時でも、油断は許されません、どんな小さな事でも、気をつけながら注意して歩んに行きます。

家に帰つたら、車イスが買つてありました。「歩けるから車イスいらぬいのに」と思いましたが、これから使う時あるだろうと買っておいてくれたのです。

初めて車イスを体験して、車イスに乗つている人の気持ちがわかつて来ました。

これからも、交通安全に気をつけながら楽しくすごして生きたいと思います。

本宮市 伊藤 恵子

『車イスを体験して』

本宮市 伊藤 恵子

◎表彰状伝達

東北管区警察局長・
東北交通安全協会会長連名表彰

【交通安全功労者】

登郷 尚武（本宮市）

【優良運転者】

渡辺記美男（大玉村）

【交通安全優良学校】

本宮高等学校（本宮市）

【優良運転者】

武田 良一（大玉村）

【交通栄誉章（緑十字銅章）】

石橋 由廣（本宮市）

【交通安全功労者】

菅野 健二（本宮市）

【優良運転者】

菊池 啓治（本宮市）

【優良運転者】

松山 捷成（本宮市）

【交通安全功労者】

国分 真一（本宮市）

【優良運転者】

菅野 治夫（本宮市）

【県警察本部長・

県交通安全協会会長連名表彰

【交通安全功労者】

星 次男（本宮市）

【優良運転者】

高橋 正晴（本宮市）

【優良運転者】

三瓶 隆弘（大玉村）

【優良運転者】

高橋 登（本宮市）

【小学生低学年の部】

渡邊 達也（本宮市）

【小学生低学年の部】

片柳 裕二（本宮市）

【小学生低学年の部】

星 次男（本宮市）

【小学生低学年の部】

高橋 正晴（本宮市）

【小学生低学年の部】

三瓶 隆弘（大玉村）

【小学生低学年の部】

高橋 登（本宮市）

感謝状贈呈

前本宮市交通安全母の会連合会会長

石橋 順子（本宮市）

【小学生高学年の部】

最優秀賞 本宮まゆみ小学校

5年

小沼 譲希
鍋島 友美
会田 美咲
杉原 佑紀
三浦 隆翔
武内 来夢
諸星 格人

佳 作 大山小学校

5年

岩根小学校

5年

玉井小学校

4年

本宮中学校

2年

白沢中学校

2年

太田 桃花

渡辺 陽菜

伊藤 恵理子

鈴木ちはる

大玉中学校

2年

大山中学校

2年

本宮地区交通安全協会荒井分会（大玉村）

第5位

本宮地区交通安全協会玉井分会（大玉村）

第6位

本宮地区交通安全協会大山分会（大玉村）

第1位

白岩・松沢分会（本宮市）

第2位

本宮地区交通安全協会仁井田分会（大玉村）

第4位

本宮地区交通安全協会玉井分会（大玉村）

第3位

本宮地区交通安全協会荒井分会（大玉村）

第5位

本宮地区交通安全協会玉井田分会（大玉村）

第6位

本宮地区交通安全協会大山分会（大玉村）

第1位

◎交通安全作文コンクール

応募総数437点

【小学生低学年の部】

最優秀賞 玉井小学校

3年

優秀賞 糸沢小学校

3年

佳 作 和田小学校

3年

玉井小学校

3年

本宮小学校

2年

佳 作 玉井小学校

3年

吉田 匠甫

2年

【小学生高学年の部】

最優秀賞 本宮まゆみ小学校

5年

優秀賞 大山小学校

5年

佳 作 岩根小学校

4年

玉井小学校

4年

佳 作 大山中学校

2年

大玉中学校

2年

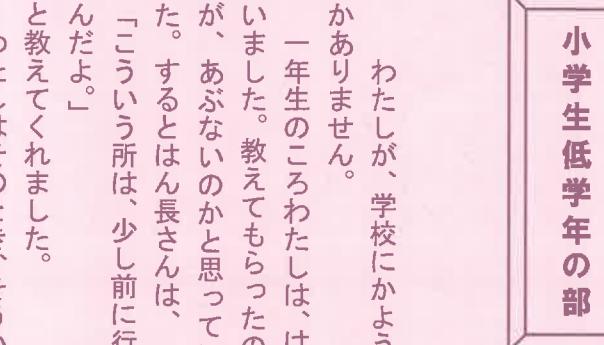
【一般の部】

最優秀賞 本宮市

伊藤 恵理子



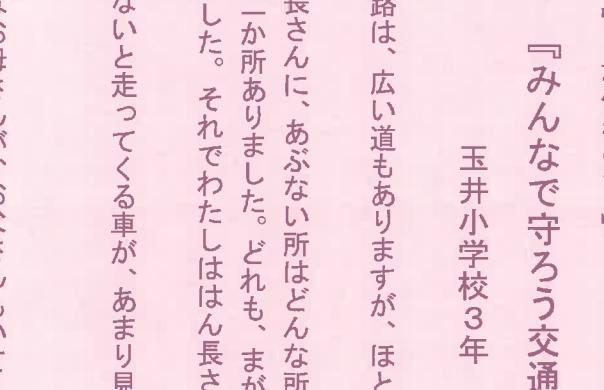
最優秀作文発表（小学校低学年の部）
玉井小学校3年 高松ひよりさん



【最優秀賞】

『みんなで守ろう交通安全』

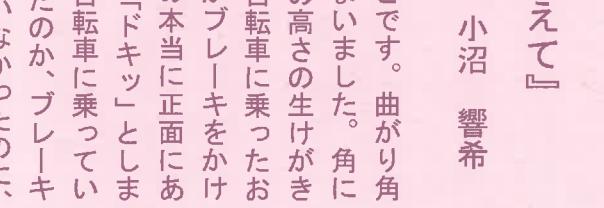
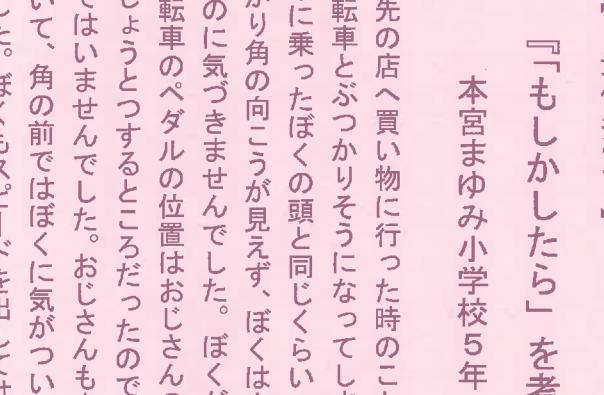
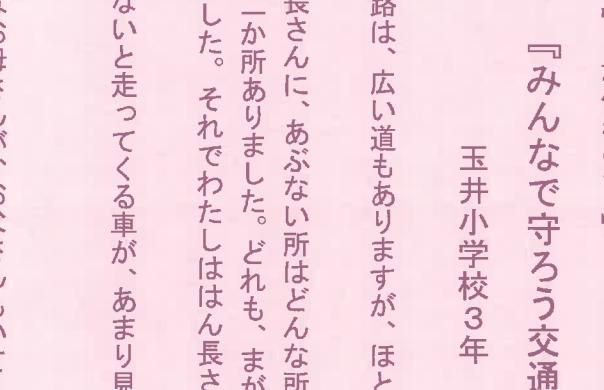
玉井小学校3年 高松ひより



【最優秀賞】

『「もしかしたら」を考えて』

本宮まゆみ小学校5年 小沼 韶希



わたしが、学校にかよう道路は、広い道もありますが、ほとんどがせまい道しかありません。

一年生のころわたしは、はん長さんに、あぶない所はどんな所なのが教えてもらいました。教えてもらったのは二か所ありました。どれも、まぎりかどや、カーブが、あぶないのかと思つていました。それでわたしははん長さんに聞いてみました。するとはん長さんは、「こういう所は、少し前に行かないと走つてくる車が、あまり見えないからこわいんだよ。」と教えてくれました。

わたしはそのとき、そういえばお母さんが、お父さんもいてくれるのに、どうしてそんなに気をつけてねと言うのだろう、と思っていました。とくに自転車にのるときは何度も気をつけるように言われます。そのりゆうは、お父さんが車を見ていても、わたしがミラーや車が見えにくいいからだったんだなあとわかりました。学校に入ると交通安全教室もあるので知らないことも、よく学べました。さらに、今年は交通安全教室で、自転車のり方を、学習しました。ちょっとたかくてのりづらかったけど、ルールを守つてできたと思います。

急にとび出したり、虫をむ中でおつて道路にとび出したりしてしまつたこともあります。その場合、車を運転している人は歩いている人や走っている人が急にどんな動きをするかよそうできません。もしドライバーが人をひいてしまつた人が悪いとも、ひいてしまつた人が悪いことになつてしまします。だからわたしはよく気をつけたいと思います。

わたしは、交通じこにあつてけがをしてしまつた人もとってもかわいそうだし人をひいてしまつて悪いことになつてしまつたドライバーも悪いと思うけどちゃんとがいる人や走っている人が悪くても、ひいてしまつた人が悪いことになつてしまします。人がいなくなつたらとてもかわいそうだと思います。わたしは、おたがいに命を大切に安全に気をつけて、道路を歩いたり自転車にのつたりしたいと思います。

わたしは、交通じこにあつてけがをしてしまつた人もとってもかわいそうだし人をひいてしまつて悪いことになつてしまつたドライバーも悪いと思うけどちゃんとがいる人や走っている人が悪くても、ひいてしまつた人が悪いことになつてしまします。人がいなくなつたらとてもかわいそうだと思います。わたしは、おたがいに命を大切に安全に気をつけて、道路を歩いたり自転車にのつたりしたいと思います。

わたしは、交通じこにあつてけがをしてしまつた人もとってもかわいそうだし人をひいてしまつて悪いことになつてしまつたドライバーも悪いと思うけどちゃんとがいる人や走っている人が悪くても、ひいてしまつた人が悪いことになつてしまします。人がいなくなつたらとてもかわいそうだと思います。わたしは、おたがいに命を大切に安全に気をつけて、道路を歩いたり自転車にのつたりしたいと思います。

ぼくが自転車で橋をわたつた先の店へ買い物に行つた時のことです。曲がり角で知らないおじさんが乗つた自転車とぶつかりそうになつてしまつました。角には、家が建つていました。自転車に乗つたぼくの頭と同じくらいの高さの生けがき匂いがある家でした。だから曲がり角の向こうが見えず、ぼくは自転車に乗つたおじさんがこちらに向かつてくるのに気づきませんでした。ぼくがブレーキをかけて止まつたときには、ぼくの自転車のペダルの位置はおじさんの本当に正面にありました。そのため、あぶなくしようつするところだつたので「ドキッ」としました。しかしおじさんはあわててはいませんでした。おじさんも自転車に乗つてたけれど、スピードを落としていて、角の前ではぼくに気がついたのか、ブレーキをかけてすつと止まつてくれました。ぼくもスピードを出してはいなかつたのに、曲がり角でとつさに止まつたのでとてもおどろきました。

おじさんとぼく、何がちがつたのでしょうか。おじさんは大人だからぼくが見えないのでしょうか。けれども、相手から見えたのならば、ぼくからも相手が見えただすです。やっぱりおじさんからもぼくは見えなかつたのです。そして、おじさんは「角が見えなかつた」から注意して運転していたということです。見えない場所から「もしかしたら」は本気の「もしかしたら」ではありませんでした。なぜなら自分が交通事故にあうことを真剣に考えていなかつたからです。「歩行者とぶつかるまるだろう」とか自分に都合よく考えていました。なので、曲がり角で一時停止をしわすれたのだと思います。

ぼくは、自分がだれかとぶつかるような事故にあう「もしかしたら」をきちんと考えて行動していかなかつたことに気がつきました。この体験と反省から、自転車に乗る時は必ず「あるかもしれないとつ然のもしかしたら」を考えて、一時停止をわすれずに運転しようと思います。